

幕末・明治の教育者たち

こうどうかん
—弘道館とその周辺—

講師 佐賀城本丸歴史館主事 松田 和子氏

本年度第1回の「郷土研究講座」(県立図書館主催:年間4回開催)は、佐賀城本丸歴史館で開催中であった「幕末・明治の教育者たち」展に合せて、同一演題の下、「弘道館とその周辺」を中心テーマに置いて講演会を行いました。講師には、「幕末・明治の教育者たち」展の展示担当者である佐賀城本丸歴史館企画学芸課の松田和子氏をお迎えしました。

講演は、講師自らがパワーポイントで作成した資料(スライド38枚)を液晶プロジェクターで映しながら進められ、その内容を具体的に伝えるとともに、平易に理解できるように配慮がなされており、参加者の間では分かり易かったと好評でした。本丸歴史館の「展示」を観ていた参加者には、当時における教育制度や教育者たちへの理解がより一層深まったようでした。

講演内容は大きく分けて以下の三分野についてのものでした。

① 先ず、弘道館の概要についての説明がありました。弘道館は、1781(天明元)年八代藩主鍋島治茂によって設立されたもので、十代藩主鍋島直正の時に、北堀端(現在の徴古館付近)に新校舎が建設されました。佐賀藩の行政を担う役人として有用な人物を育成するために建設されたものです。なお、1923(大正12)年に建立された記念碑が現在も残っています。揮毫したのは鍋島家十二代当主鍋島直映、碑文の内容は久米邦武作と伝えられています。また、この概要説明の中では、「西高旧蔵資料」が紹介されました。こ

れは、県立佐賀西高等学校に旧蔵されていた、約9000点に及ぶ漢籍・国書などの冊子類です。次に、弘道館における代表的な「先生」について、資料にそいながらの紹介がありました。古賀家の古賀精里、古賀穀堂、古賀素堂については、藩主に提出した意見書や肖像画そして使用した印章などについて、スライド表示を交えながら詳しい説明がなされました。また、枝吉神陽については、武士の現状を憂え、発奮を促して義祭同盟を起こして尊王の精神を説いたことなどが「書状写」を使って紹介されました。

② 医学寮・蘭学寮については、佐賀藩主の侍医を経て、蘭方医としては初めて幕府の奥医師となつた伊東玄朴を中心に、佐賀藩における蘭方医たちの活躍が紹介されました。

③ 英学校致遠館については、主に、お雇い外国人のフルベッキについての紹介がありました。

当日の講演会には、悪天候にもかかわらず50名もの参加者があり、講演後は熱心な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。(文責:県立図書館)

